

# 実践事例レポート 生徒の資質・能力を育む 「特別活動」



情報科  
瀧澤洋貴先生

## Case 1

### 生徒全員参加の「スマホのルール作り」を通じ 自ら考えて意見発信できる力を育成

田川高校（長野・県立）

ルールの押し付けではなく  
生徒一人ひとりが考える

日本アルプスを望むのどかな環境に位置し、地域の多様な生徒が通う長野県田川高校。同校には、生徒が作った「スマホ利用のルール」がある。

それができた背景には、スマホをめぐる諸問題だけでなく、生徒への課題感もあった。今春卒業した34期生の担任を務めた瀧澤洋貴先生は、同校生徒について、「能力があるのに一歩引いてしまうところがある」と語る。彼らの力を十分に引き出そうと、34期生の学年団では、特別活動や総学にディスカッションやプレゼンを多く取り入れるなど、自ら考え意見発信する力の育成に注力していた。その延長線上に、34期生中心に取り組んだ「スマホルール作り」の活動がある。

「誰かの作ったルールを押し付けても、生徒は反発するだけ。ルールを守ることに以上に、スマホの問題を生徒一人ひとりが考えて判断することに意味があると考えました」（瀧澤先生）

「誰かの作ったルールを押し付けても、生徒は反発するだけ。ルールを守ることに以上に、スマホの問題を生徒一人ひとりが考えて判断することに意味があると考えました」（瀧澤先生）

「誰かの作ったルールを押し付けても、生徒は反発するだけ。ルールを守ることに以上に、スマホの問題を生徒一人ひとりが考えて判断することに意味があると考えました」（瀧澤先生）

#### 教員主導の情報提供から始め 徐々に生徒主体の活動へ

ルールを作るだけでなく、それを学校全体に浸透させるため、3カ年の取り組みとして計画。1年目は34期生のみでルール作りに取り組みが、2年目、3年目と段階的に新入生を巻き込んでいくというものだ（図1）。

1年目、最初のステップは教員主導の情報提供だった。34期生の新入生オリエンテーションおよび総学にて、情報科の瀧澤先生がネット利用に関する法律やネットトラブル事例などの講義を実施。また、保護者や生徒を対象にスマホに関するアンケート調査を行い、生徒一人ひとりがスマホの使い方を考えるための材料を提供した。

その次のステップとして、生徒主体の活動へ。10月、学年全体が集まり、どんなスマホルールが必要か、6人程度の

図1 生徒主体のスマホのルール作り 3カ年の流れ

#### ●1年目(16年度)…1学年の取り組み

教員 主導	4月	スマホ・インターネットに関する危険性・法律に関する講義 …… 新入生オリエンテーション合宿(1時間)
	6月	ネットトラブル事例やSNSの危険性に関する講義 …… 総合的な学習の時間(1時間)
	7月	インターネットに関する保護者アンケート実施
	9月	インターネットに関する生徒アンケート実施 …… ホームルーム(HR)
生徒 主体	10月	生徒自身によるスマホのルール検討(グループ討論) …… 総合的な学習の時間・LHR(計2時間) 代表者による意見集約、ルール策定 …… ルーム長会(クラス代表)
	10月	各生徒へ決定内容の周知 …… HR

#### ●2年目(17年度)…1・2学年の取り組み

教員 主導	7月	インターネットに関する生徒・保護者対象アンケート実施
	9月	1・2学年合同スマホ学習 …… 総合的な学習の時間・LHR(計2時間) ・スマホ・インターネットに関する危険性・法律に関する講義 ・生徒自身によるスマホのルール検討(グループ討論)
生徒 主体	10月	代表者による意見集約、ルール改定 …… ルーム長会(クラス代表)
	10月	各生徒へ決定内容の周知 …… 1・2学年合同学年集会、HR

#### ●3年目(18年度)…全学年の取り組み

生徒 主体	4月	「田川高校のスマホルール」として提案 …… 生徒総会
----------	----	----------------------------

グループで話し合った。事前に「批判厳禁」「自由奔放」「質より量」「結合改善(他人の意見を発展させる)」という基本姿勢を共有したこともあり、自由な

意見交換ができたという。グループ学習で出た意見を集約するため、後日、ルーム長(学級委員)会を開催。2時間に及ぶ議論の末、学年

取材・文／藤崎雅子



## 図2 田川高校のスマホに関するルール (2017年度改定版)

- 授業中は使用しない(ホームルーム中・清掃中も同様)
    - ※授業中(サイレントモードにして共用バッグに入れる)
    - ※テスト中(担任の指示に従う)
  - 学校のコンセントで充電しない(盗電しない)
  - ながらスマホをしない
    - ①歩きながら(廊下・階段・人混み)
    - ②自転車に乗りながら
    - ③食事をしながら
    - ④音楽を流しながら
    - ⑤イヤホンで音楽を聴きながら(音漏れ)
      - ※他人が迷惑に感じる「ながらスマホ」は行わない
  - 個人情報をSNSに流出させない
  - SNSなどに悪口(人が不快に感じるもの)を書き込まない
  - 危険なサイトにアクセスしない(メール・LINEなどのなりすましにも注意)
  - ゲームなどでの課金は控える
  - 困った時は親や先生に相談する
- \*友達との時間(スマホを使用しない)を大切にしましょう

1・2学年合同で実施したスマホのルール作りのグループ学習。付箋と模造紙を使ってたくさん意見を出し、似た意見をまとめて整理していった。



ルール決定を行うルーム長会で、教員はオブザーバーに徹し、生徒の話し合いを見守った。



### 本質的な問題に生徒自身で気づく

2年目も、講義やアンケート調査を経て生徒が話し合うというステップは同じだが、それを34期生(2学年)と35期生(1学年)が合同で実施。全員で話し合うグループ学習も、学年混合グル

ープで行った。それを踏まえて、前年度ルールを改定する1・2学年合同ルーム長会を開催。生徒会の司会のもと、前回以上に活発な議論を行った。前年度ルールと大きくは変わらないが、いくつかは見直しいや文言修正が検討された。そこでの争点の一つは、前年度ルール「夜12時以降の連絡はしない(メールやSNSなど)」の是非。適正な時間設定について議論するなかで、「時間の感覚は人それぞれだから一律のルールは不要」との結論に至り、これを撤廃することに。一方で、「コミュニケーションへの影響も議論し、「友達との時間を大切にしよう」との注意書きが加えられた。

「ルールをどうするかだけでなく、本質的な課題にまで議論を広げること

### 誰もが内面にもつ意見を引き出す場が必要

こうして3年間取り組んだ34期生では、目立ったスマホトラブルは0件になった。また、スマホ利用可とされている休み時間にも、各教室ではスマホをいじらずクラスメイトとの会話を楽しむ生徒が多くみられた。そんな生徒の姿に、瀧澤先生は「自分たちで判断して行動できる力が確実に育った」と、成長の手ごたえを感じているという。

今後は、既にスマホルールがある状態で入学した生徒たちも、自分たちのルールとして大切にできるよう、各クラスで話し合うなど、スマホ利用について考える機会を設ける予定だ。

また、スマホルール作りに限らず、生徒が自ら考え意見を発信していく活動には今後力を入れていくという。

「高校生は内面に自分の意見をしっかりともっているものです。それを教員が潰すのではなく、うまく外に出せる場を用意することができれば、生徒は自ら伸びていけるのではないのでしょうか(瀧澤先生)」

## 生徒の声

### 自分たちで決めて行動した経験が自信に

●普段から、休み時間などの友達との時間がスマホに潰されることを残念に感じていた僕は、2年目のルーム長会で意見を言って、スマホルールに「友達との時間を大切にしよう」という注意書きが付くことになりました。ルールで強制しなくても、大切な時間をどう使うか、みんなが考えて調整するきっかけが作れたかなと思っています。活動を通じて、今後も自分で判断し行動できるのではないかと自信ができました。また、いろんな考え方の人に配慮しながら意見を出す大切さを学べたこともよかったです。(小澤さん)

●他校の友達から「スマホのルールが厳しい」という不満をよく聞いていましたが、うちの学校では自分たちが意見を出して決めていったルールなので、みんな反発することなく守っていました。僕自身も、議論の過程がわかっているの、すんなり受け入れることができました。僕は中学校時代、意見を出すタイプではなかったのですが、スマホルール作りなどの経験でだいぶ変わったと思います。春から社会人になります。この経験を活かしてがんばっていきます。(本田さん)



元生徒会長 / 3学年・小澤湧汰さん(写真左)  
元生徒会副会長 / 3学年・本田翔哉さん(同右)